

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、XとYの罪責について、具体的事実を示して論じなさい(ただし、特別法上の罪は除く。)(配点:100点)

(設例)

1. 開業医Xは、一人息子のA(21歳)を後継者にするために医師にすることを強く願っていた。しかし、Aは、医学部受験にことごとく失敗したので、Xは、替え玉受験を講じてもAを合格させようと、私立の甲医科大学で医学部事務長のポストにあり、古くからの付き合いのあるYに相談をもちかけた。これを聞いたYは、Xの計画に乗り、替え玉として乙大学医学部のZに依頼し、それぞれに事前に1,000万円、合格すればYに1,000万円、Zに500万円の成功報酬を支払うことを要求し、Xはこれに応じた。

2. Xは、帰宅後、Aを説得しこれに応じたAに出願準備をさせた。一方、Yは、Zに依頼しその承諾を得たうえで、早速準備態勢に入った。数日後、XとAは、YとZに会い、各人にそれぞれ1,000万円を渡した。

甲医科大学の入学試験では、受験者写真照合票(E票)と受験者本人及び合格後本人から提出され学籍原簿に貼付される顔写真とを照合することにより不正防止を期していた。そのため、Yは、替え玉受験が発覚しないように、出願時には替え玉受験生のZの顔写真をE票に貼って、Zに受験させ、合格すると、これをA本人の顔写真を貼ったE票に差し替えるという方法をとることにして、ZにAの替え玉として受験させた。Zは、入学試験の答案の所定欄にAの氏名・受験番号を記載するとともに、全科目の各設問に解答し、各答案を試験監督に提出した。後日の合格発表により、Aの氏名が甲医科大学医学部進学課程の合格者発表掲示板に掲載された。

3. その翌日、Xは、Zから「成功報酬が500万円では低過ぎる。後、2,000万円を要求する。さもなければ、自首して、警察にすべて打ち明けます」と、脅された。そこでXは、Yに相談したところ、Yは、Zを少々痛い目に遭わせるしかないと答えた。Xは、Zを殺害する意図であったが、Yは文字通り傷害を負わず程度の意図しかなかった。

4. その数日後、Xの診療所の待合室において、Yより先に到着したZに対し、コーヒーの中に致死性の毒物を入れ、Zに飲ませたところ、Zが苦しみ出した。そこへ到着したYは、Xが毒物を投与したことを知り、「Zは死んでしまう。救命しなさい」と叫んだので、Xはこれに従い、解毒剤を与えた。その結果、Zは一命をとりとめた。